



CoinGecko

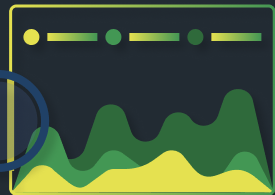
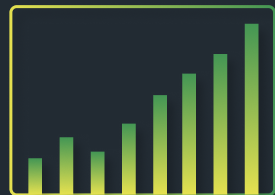
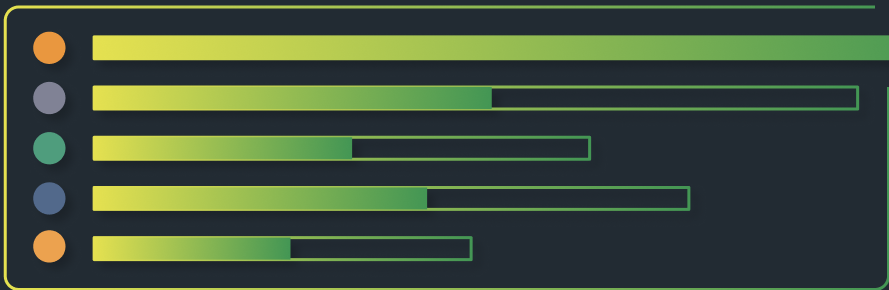
分散型 パーペチュアル プロトコルの現状

協賛:

LEVEL
FINANCE

メディアパートナー:

BANKLESS
JAPAN



市場データ。分析。クラウドソーシングによる洞察。

分散型パーペチュアルの起源

2016年にBitMEXが導入し、クリプトのパーペチュアルは、スポットレートに可能な限り近い価格で取引されるために、新たな資金調達率メカニズムを使用しました。

パーペチュアルコントラクトとは



経済学者ロバート・シラーが 1992年に初めて提唱したパーペチュアルコントラクトは、基本的には期限や納品日のない物理的に決済される先物契約です。



2016年5月13日に、中央集権型のクリプト取引所である BitMEXは、ビットコインの最初のクリプトパーペチュアル製品、XBTUSDパーペチュアルスワップを開始し、最大 100倍のレバレッジ取引を可能にしました。資金調達率を利用することで、トレーダーはパーペチュアルコントラクトが基礎資産の価格変動に追従するように、ポジションを開いたり閉じたりすることが奨励されます。

それ以来、多くの集中型および分散型プロトコルが、クリプトや株式など、さまざまな資産のパーペチュアル製品を導入しています。これらのパーペチュアルコントラクトは、BitMEXのCOINUSDパーペチュアルのように、ステーブルコインで表示される場合もあり、その場合、USDで決済されます。一方、BybitのBTCUSD逆パーペチュアルのような製品は、基礎資産であるビットコインで決済されます。



パーペチュアルコントラクトは現在、クリプト空間で最も広く取引されているデリバティブであり、2023年第1四半期にはスポット市場のボリュームの2.6倍に達しました。



分散型のパーペチュアルの最初のイテレーションは、トランザクションコストがまだ低かった2020年にEthereum上に導入されました。



2021年にガス料金が上昇し始めると、プロジェクトはアルトチェーンとL2ロールアップにネイティブにパーペチュアル取引所を構築し始め、それにより高いトランザクションスループットを大幅に低いコストで提供しました。



dYdX Chain

分散型パーペチュアルの人気の指数関数的に成長するにつれて、流動性の必要性も同様に増大しました。より多くのユーザーを引きつけるための継続的な取り組みの一環として、分散型パーペチュアル取引所はマルチチェーンになり、注文実行速度を向上させるために自己のアプリチェーンへの移行を開始しました。

分散型パーペチュアルの必要性

中央集権的なパーペチュアルの分散型バージョンは、誰でも自分の資金を自分で管理しながら、高いレバレッジを使用して取引を行うことを可能にします。

中央集権型パーペチュアル



より多くのクリプト取引ペア

中央集権型取引所 (CEX) は、異なるレバレッジ比率と取引ペアを持つ、信頼性のある多種多様な資産を提供する傾向があります。



高い流動性

ユーザーが資産価格に大きな影響を与えずに大きなレバレッジポジションを開くことが容易です。



ユーザーフレンドリーな追加の機能

詳細な情報を提供する取引インターフェース、さまざまなサービス、そして複雑なオーダーをサポート。



中央集権型の保管

ユーザーの資金は中央集権型のプラットフォームに保管され、詐欺や悪用に対して脆弱である可能性があります。



市場の操作と悪用

中央集権型の取引所は時々不透明に運営され、スプーフィングのような市場操作の実践に開放されている可能性があります。

分散型パーペチュアル



パーミッションレス

トレーダーは自分の資金を自分で管理し、中央集権型のエンティティの必要なく取引を実行することができます。



より広範な資産

クリプトのパーペチュアルを提供するだけでなく、ほとんどの分散型パーペチュアル取引所は株式、商品、通貨のパーペチュアルも提供しています。



高いレバレッジ

分散型パーペチュアルは中央集権型の取引所と比較して、より高い範囲のレバレッジを提供する傾向があり、一部のプロトコルでは最大1000倍のレバレッジを提供しています。



スマートコントラクトとオラクルの悪用

ほとんどの分散型プロトコルと同様に、プラットフォームのスマートコントラクトのバグや脆弱性は、ハッカーが資金をドレインさせて価格を操作し、利益を得ることを可能にします。



高い手数料

分散型プラットフォームは、中央集権型の対応と比較してしばしば高い手数料を課することが多く、ユーザーはネットワーク混雑時に高いトランザクション手数料を支払うことがあります。

分散型パーペチュアルのタイムライン

分散型パーペチュアルは、最初のプロトコルが2020年半ばに立ち上げられたばかりの短い歴史ですが、複数のモデルを持つ競争力のあるDeFiセグメントに急速に進化しました。



分散型パーペチュアルモデルの進化

オーダーブックから流動性プールまで、分散型パーペチュアルプロトコルは、ユーザーにより効率的な取引と他の収益獲得の可能性を提供するために、複数の進化を遂げてきました。

セントラルリミットオーダーブック



- 最初の分散型パーペチュアルは、オーダーブック上で買い手と売り手をマッチングさせることにより、中央集権型パーペチュアルを模倣しています。
- 取引と清算はネットワーク上で実行・決済されますが、オーダーブックとオーダーマッチングはオフチェーンで処理されます。

パーチャルAMM (vAMM)



- Perpetual Protocolによって導入されたvAMMは、Uniswapなどの伝統的なAMMと同じ定数製品式を利用しています。
- vAMMには実際の資産は保管されません。その代わりに、それらはスマートコントラクトの金庫に保管され、それがvAMMを支える担保として機能します。

大規模なL2移行



- 最初の分散型パーペチュアルはEthereum上に構築されましたが、ネットワークの混雑と高いトランザクション手数料は、高スループットと低コストに依存するその実現可能性を阻害しました。
- そのため、プロトコルは、アルトチェーンとL2ロールアップに移行を開始しました。Perpetual Protocol V2はOptimism上に、dYdX V3はStarkware上に立ち上げられました。

プロトコル手数料をトークンホルダーへ



- 取引量が増加すると、これらのプロトコルは取引手数料を得ることもでき、これはインセンティブの一形態として、ステーキングメカニズムを介してガバナンストークンホルダーに分配することができました。
- これらの手数料は、他の典型的なDeFiイールドファームとは異なり、ガバナンストークンではなくETHやステーブルコインで支払われ、ホルダーに実質的な利回りを提供しました。

流動性プールモデル



- GMXによって普及し始めた新しい分散型パーペチュアルは、流動性プールモデルを利用し始めました。これにより、LPがトレーダーの相手方となることが可能になりました。トレーダーが取引から利益を得た場合、損失は流動性プールによってソーシャライズされ、その逆も同様です。
- LPトークンは、トレーダーの損失がプールに戻されることで価値が上昇します。

分散型パーペチュアルプロトコルの特徴比較

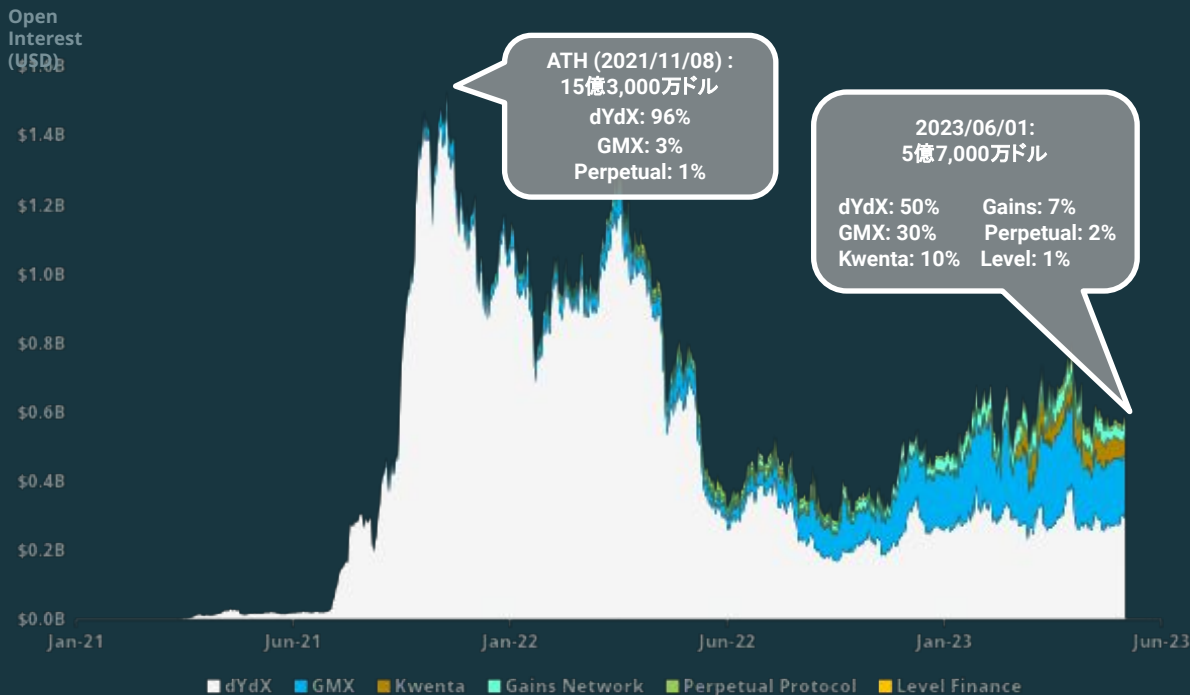
トップ6の分散型パーペチュアルプロトコルは、それぞれが異なるモデルで動作しており、特にサポートされている資産と最大レバレッジに関しては異なるオファーを提供しています。

	サポート市場	ネイティブトークン	ガバナンストークンの市場価値	流動性モデル	サポートネットワーク	サポート担保	最大レバレッジ
	クリプト	DYDX	3億2,800万ドル	DYDXはオフチェーンメッセージを用いてオーダーブックを作成	- Ethereum (StarkEx) - Native blockchain on Cosmos (Q3 2023)	USDC	BTC, ETH: 20x その他: 10x
	クリプト	GMX GLP	4億7,200万ドル	GLPホルダーがトレーダーに流動性を提供する流動性プール	- Avalanche - Arbitrum	BTC, ETH, WETH, LINK, UNI, USDC, USDT, DAI, FRAX	50x
	クリプト、外国為替、株式、商品、指数	GNS gDAI	1億5,000万ドル	プラットフォームのgDAI金庫から供給される流動性プール	- Polygon - Arbitrum	DAI	クリプト: 150x 外国為替: 500-1000x 株式: 20-50x 商品: 150-250x 指数: 35x
	クリプト、外国為替、商品	KWENTA	4,000万ドル	Kwentaの流動性はSynthetix Debt Poolから供給	Optimism	sUSD	クリプト: 25-50x 外国為替: 50x 商品: 50x
	クリプト	LVL LGO LLP	1,900万ドル	各々が異なるリスクプロファイルを持つトランシェに分けられた流動性プール	- BNB Chain - Arbitrum	BTC, ETH, BNB, USDT	50x
	クリプト	PERP	4,200万ドル	Uniswap V3を通じてトレードが処理される仮想AMMモデル (vAMM)を使用します	- V1: Ethereum - V2: Optimism	ETH, WETH, OP, USDT, USDT, FRAX	10x

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルの OI

2021年11月に史上最高値を記録して以来、トップ6の分散型パーペチュアルにおけるOIは65%以上大幅に減少し、その中でdYdXはOIの55%を占めています。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルのOI (2021年4月 - 2023年6月)



2021年後半のビットコイン先物の OIが87億6,000万ドルから145億ドルに65.5%急増したのに伴い、分散型パーペチュアルのOIも急上昇を見せました。2021年11月に史上最高の 15億3,000万ドルを記録した後、OIは2022年に急激に下落し、2億8,000万ドルの底値を記録した後、2023年6月現在では5億7,000万ドルまで徐々に回復しました。

2021年、dYdXはそのセクターで独占的な地位を占め、プラットフォーム上での OIが280万ドルから14億ドルへと540倍に急増しました。しかし、彼らは新たな競合相手である GMXなどに対して徐々に OIシェアを渡しています。

2023年6月現在、dYdXがOIの50%を占めており、GMXが2位で30%を占めています。

2022年のクリプトの下降局面にも関わらず、より新しいプロトコルがOIのシェア争いを始めたことは注目に値します。 Gains Network、Kwenta、Level Financeを合計すると、2023年6月の6つの取引所の総 OIの18%を占めています。

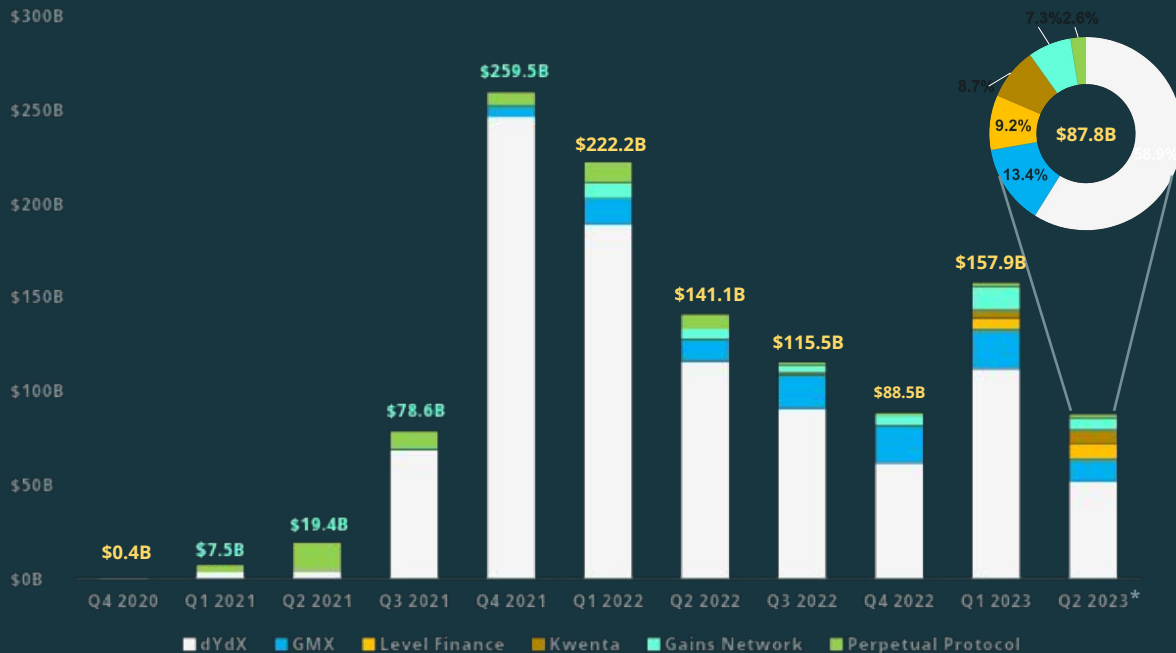
しかし、分散型パーペチュアルにおける総 OIは、中央集権型取引所の200億ドルのOIのわずか3%に過ぎません。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルの取引量

OI(オープンインタレスト、未決済建玉)と同様に、取引量も2021年第4四半期のピーク以来、66.2%大幅に減少しましたが、dYdXは依然として58.9%のシェアを維持しています。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルの取引量 (2020年第4四半期 - 2023年第2四半期)

Trading
Volume (USD)



分散型パーペチュアルプラットフォームの取引量は、2021年のDeFiブームに伴い、2021年第4四半期に2,595億ドルのピークに達しました。その後のボリュームは下降傾向にある一方で、2023年第1四半期には市場全体のラリーに伴い上昇が見られました。しかし、分散型パーペチュアルの総取引量は、2023年第1四半期におけるCEXの四半期取引量7兆ドルのわずか2.2%にすぎません。

2021年上半期、Perpetual Protocolの取引量は一時的に全体の大部分を占め、第2四半期には全体の77.8%のピークに達しました。しかし、同年下半期には、dYdXが取引量で大きくリードし、第4四半期には94.8%の最高市場シェアに達しました。

しかし、それ以降、dYdXとPerpetual Protocolの両者は、GMX、Level Finance、Kwenta、Gains Networkなどの新たなプロトコルに市場シェアを渡しました。

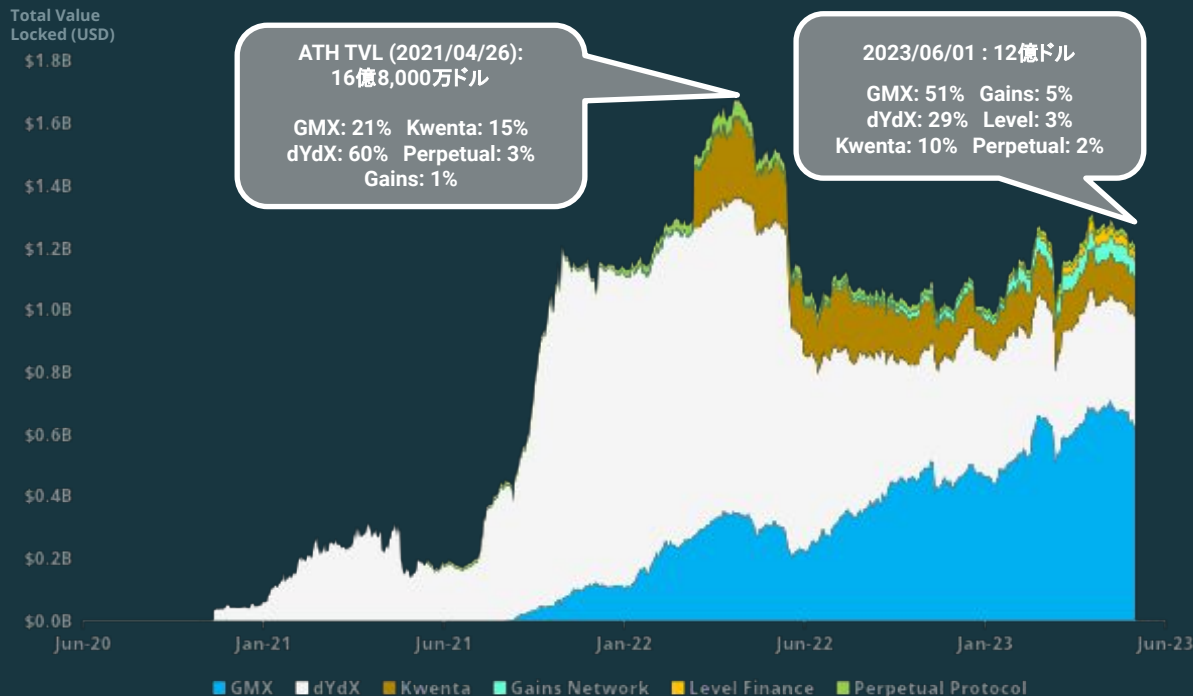
新興プロトコルのGains Network、Kwenta、Level Financeは、2023年第2四半期の取引量の合計で25.2%を占めました。

2022年12月に立ち上げられた新参のLevel Financeが、2023年第2四半期の取引量の9.2%を占めています。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルのマルチチェーン TVL

TVLは2020年以來35.7倍増加し、dYdXとGMXがTVLの80%を占めています。GMXは預金者報酬の分配で人気を集めています。

TVL内訳(2020年11月 - 2023年6月)



分散型パーペチュアルの先駆者の一つである dYdXは、2021年のDeFiブーム中にほとんどの TVLを占めていました。2021年末にかけて、dYdXは分散型パーペチュアル取引所のマルチチェーンTVLの88%を占め、TVLを16.5倍に増加させ、2021年12月には6億1,200万ドルから100億ドルへと増加しました。

2022年、分散型パーペチュアル間の TVLシェアは、2021年末にArbitrum上でGMXが立ち上げられた後、急速に変化しました。この新たなプロトコルは、2022年中にdYdXの市場シェアを奪い、TVLを10億ドルから46億ドルへと増加させました。2023年6月現在、GMXはArbitrumとAvalancheを通じてマルチチェーンTVLの51%を占めています。

分散型パーペチュアルの総 TVLは2022年を通じて減少しましたが、KwentaはSynthetixの1億2,500万ドルのデットプールを利用して取引を促進し、流動性を健全に増加させました。

GMXの人気増加は、Level FinanceやGains Networkなど、同様のメカニズムを持つプロトコルの出現を引き起こしました。これらのプロトコルは、他のアルトチェーン上で独自のユーザーベースを形成しています。

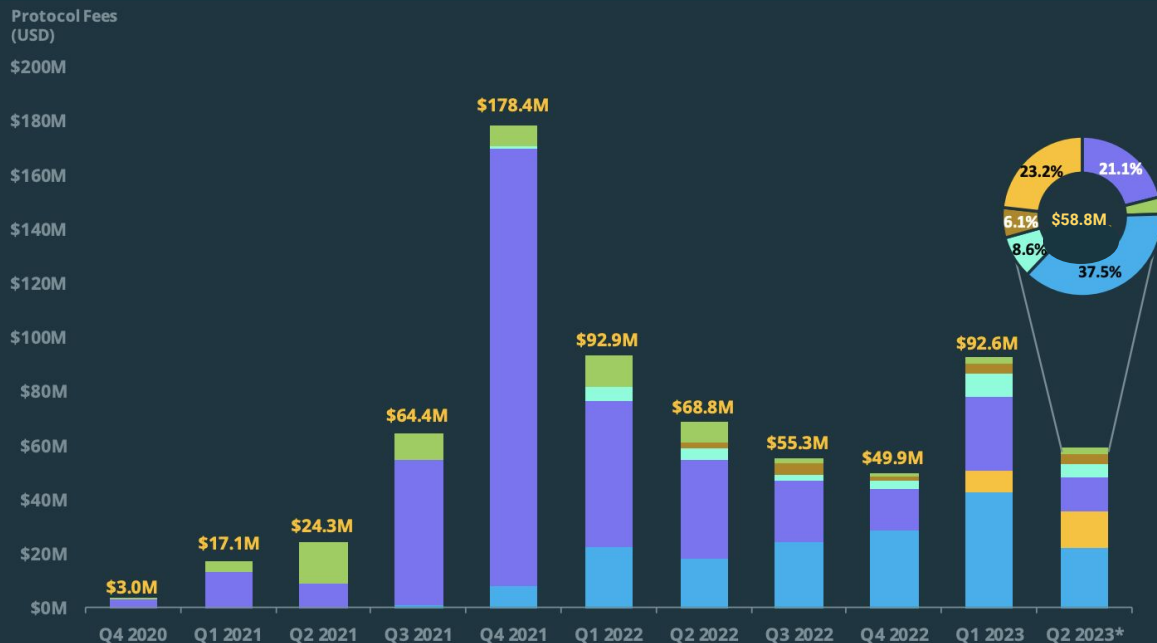
Source: [DeFiLlama](#), [Dune Analytics \(@Synthetix Community\)](#)

*TVL for Kwenta is derived from the Synthetix Debt Pool

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルで生成されたプロトコル手数料

取引量の減少に伴い、プロトコル手数料は2021年の高水準から大幅に低下し、dYdXは取引量の市場シェアを維持するために手数料を大幅に削減しなければならなくなりました。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルのプロトコル手数料 (2020年第4四半期 - 2023年第2四半期)



取引量と同様に、プロトコル手数料は 2021年第4四半期に1億7,840万ドルのピークに達し、2022年第4四半期まで下降トレンドが続いていましたが、2023年第1四半期に市場センチメントの変化によりプロトコル手数料が上昇を見せました。

dYdXは依然として取引量の大部分を占めていますが、徴収されるプロトコル手数料は 2021年第4四半期の1億6,150万ドルから2023年第2四半期の1,200万ドルへと92%減少しました。これは、中央集権型取引所との競争に対抗するために、手数料削減休暇を実施し、月間取引額が 10万ドルまでの取引が無料になるような施策が取りました。

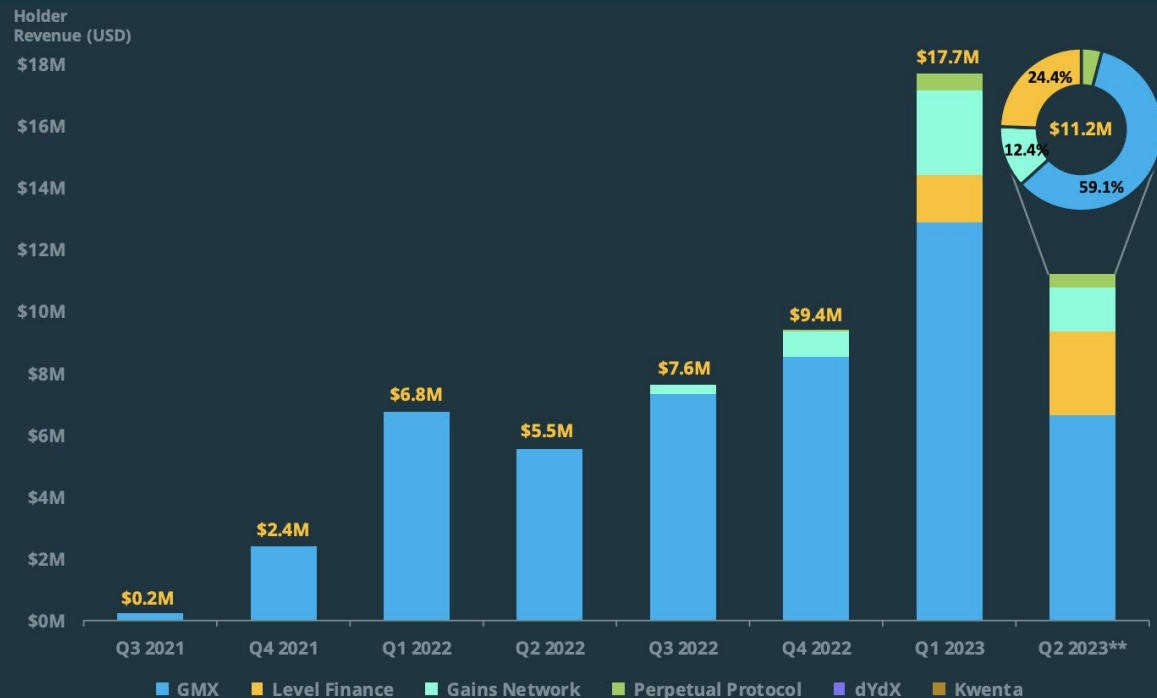
GMXやLevel Financeなどの新規プロトコルは、2023年第2四半期におけるプロトコル手数料の生成量で dYdXを追い越しました。これらの手数料は取引手数料から生じるもので、0.02%から0.1%の範囲にあります。

これらの手数料は上限で dYdXや中央集権型取引所よりも高いですが、ユーザーには取引手数料の割引、リベート、ロイヤリティプログラムなどの様々なインセンティブが提供され、これらのプロトコルを利用することを促しています。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルのホルダー収益

分散型パーペチュアルプロトコルがガバナンストークンホルダーに分配するホルダー収益は、リアルワールドのナラティブを刺激し、これらのトークンへの需要を急増させました。

トップ6分散型パーペチュアル取引所におけるホルダー収益 (2021年第3四半期 - 2023年第2四半期)



GMXは、流動性プールメカニズムの一部として、全ての手数料の30%をステークされた GMXに、残りの70%をGLPホルダーに分配する手数料共有構造を導入しました。

これらのガバナンストークンホルダーへの報酬と、LSTは、DeFiのリアルワールドのナラティブを刺激しました。これらの報酬はプロトコルのネイティブトークンではなく ETHやステーブルコインで支払われました。

この手数料共有構造は、後の分散型パーペチュアルプロトコルによって模倣されましたが、実際の手数料共有計算ではわずかに違いがありました。これらのプロトコルによって分配されたホルダー収益の合計は、2023年第1四半期に1,770万ドルに達しました。

これはこれらのガバナンストークンに対する大きな需要を引き起こし、価格を急騰させました。

dYdXは最も高い取引量の市場シェアを持っていますが、これまでに手数料を dYdXホルダーに再分配したことはありません。しかし、独自の Cosmosチェーンへの移行に伴い、dYdXに対するさらなるユーティリティが提供される可能性があります。同様に、Kwentaも同じアプローチを採用し、ネイティブトークンを保有することで取引手数料の割引を提供しています。

Sources: [Dune](#) & [TokenTerminal](#)

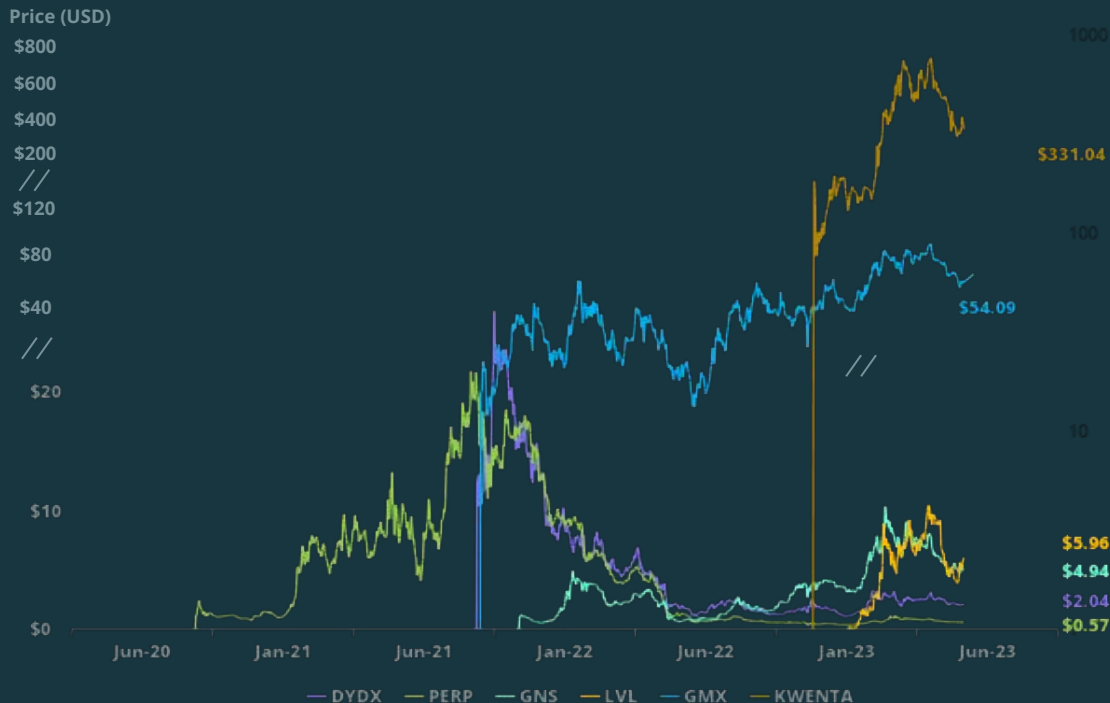
*Holder Revenue refers to the fee revenue that is redistributed to holders holding the native tokens of the protocols. It does not include rewards paid out to LP holders.

**Data up to June 1st

トップ6分散型パーペチュアルプロトコルトークンの価格

DYDXとPERPはトークンローンチ後の数週間で好調な動きを見せましたが、2022年を通じて価格は続落しました。一方で、新規トークンはそのレジリエンスを示しています。

トップ6分散型パーペチュアルプロトコル価格 (2020年9月 - 2023年6月)



	流通供給量	時価総額	完全希薄化評価額	FDV / 月間取引量
DYDX	1億6,400万	3億2,800万ドル	20億ドル	0.1
GMX	880万	4億7,200万ドル	7億1,300万ドル	0.19
GNS	3,040万	1億5,000万ドル	1億5,000万ドル	0.05
PERP	7,260万	4,200万ドル	8,600万ドル	0.08
KWENTA	13万	4,000万ドル	2億1,200万ドル	0.04
LVL	670万	4,000万ドル	2億9,800万ドル	0.12

2020年にローンチされた PERPトークンは、2021年のDeFiブーム中に\$1.10から\$8.71まで7.9倍に増加しました。同様に、dYdXのネイティブトークンも2021年9月のローンチ以降、着実に上昇し、最高値で\$26.80を記録しました。しかし、2022年以降、PERPとDYDXの価格はそれぞれ93%、75%急落しました。

2021年末にローンチしたにもかかわらず、GMXとGNSは好調で、GMXは2022年以降に2.5倍の価格上昇を記録しました。KWENTAやLVLなどの新しいプロトコルからのトークンは、2023年までに順調に機能しています。

分散型パーペチュアルプロトコル上の dApps

DeFiのコンポーザビリティに伴い、他のプロジェクトも分散型パーペチュアルを利用して構造化商品や自動複利化を実現しています。

原資保護型、デルタニュートラル型金庫



Vovo Finance



Rage Trade



GND Protocol

- 分散型パーペチュアルのコアとなるレバレッジ取引機能を活用して、プロジェクトはさまざまなリスクプロファイルに対応する構造化商品を開発しています。
- 例えば、Vovo Financeの原資保護型金庫は、預け入れた資金を使ってCurveのファーミングプールから利回りを得ます。Curveから得た利回りは、GMXで週単位のロングまたはショートポジションを開くために使われ、元の元本はCurveに触れずに残ります。
- 一方で、GNDプロトコルやRage Tradeのようなプラットフォームは、GLPのような分散型パーペチュアルからの流動性トークンを利用して、預け入れ資産の価値を維持しながら利回りを得ます。GNDは擬似デルタニュートラルの再調整メカニズムを使ってGLPの構成を模倣し、Rage TradeはUSDCの預金を使ってETHとBTCを借りて売却し、GLPの価格リスクをヘッジします。

自動複利化、レバレッジ付き利回り



Jones DAO



Plutus DAO



Yama Finance



Volta Protocol

- YearnやBeefyのようなイールドアグリゲーターと同様に、Plutus DAOのようなプラットフォームはパーペチュアルプラットフォームからの流動性トークン（例えばGLP）を受け入れ、プロトコルの報酬を自動的にプールに再投資します。例えば、Plutus DAOはGLPをplvGLPに変換し、そのETH報酬をGLPに交換し、プールに再投資します。
- GLPからより多くの報酬を得るためにレバレッジを使う意思のあるユーザーに対して、Jones DAOのようなプロトコルは、姉妹金庫からUSDCを借りて追加のGLPを発行します。得られた報酬は、GLP金庫とUSDC金庫の間で分割されます。Yama FinanceやVolta Protocolのような他のプロトコルでは、ユーザーが預け入れたGLPを担保にして該当プロトコルのネイティブステーブルコインを借り入れ、それを更にGLPに変換することでレバレッジ付きの利回りを得ることができます。

今後の課題

好調なスタートではあるものの、分散型パーペチュアルプロトコルが中央集権型取引所と競争するためには、まだ克服すべき大きな課題があります。

より多くの取引ペア	- 分散型パーペチュアルはパーミッションレスの取引を提供していますが、新たな取引ペアの作成は、プロジェクトチームやガバナンスによって大きく制限されています。これは現存する2つの課題が原因です： - 特定の取引ペアの信頼性のある基準価格を提供するオラクルの利用可能性 - 流動性が低いとプールが価格操作に対してリスクを負う可能性があり、特にプロトコルが高いレバレッジ倍率を提供している場合には問題となる - まだ発展途上のL2、アルトチェーンの一部であり、流動性とオラクルの利用可能性の観点からはまだEthereumには及びません。L2とアルトチェーンが成熟するにつれてこれらの課題は解決されるでしょうが、それは、正しいスタックを選択する重要性を強調しています。
より多くの注文タイプ	- ほとんどのパーペチュアルプロトコルは現在、最も基本的なマーケット注文とリミット注文を提供しています。より成熟し、より洗練されたトレーダーを引き付けるにつれて、より洗練された注文タイプが必要になるでしょう。 - また、分散型パーペチュアルプロトコルと中央集権型取引所が提供する機能セットを平準化するのに役立ちます。
より多くの担保タイプ	- 取引ペアや注文タイプの増加と同様に、より多くの担保タイプはトレーダーに大きな便利さと柔軟性を提供します。しかし、価格オラクルに関する同様の制限が続いており、流動性の低い資産を担保として受け入れるリスクも高まっています。 - 恐らくは孤立したプールの形で、より段階的な方法で、プロトコルは最終的により多くの担保タイプを導入することになるでしょう。
取引手数料の引き下げ	- 分散型パーペチュアルプロトコルの手数料は、中央集権型パーペチュアル取引所に比べて依然として比較的高いです。これは主に、流動性プールモデルを利用するプロトコルが流動性提供者に報酬を提供しなければならないためで、事実上トレーダーがテイカーとメイカーの手数料の両方を負担することになります。 - このダイナミクスは変わらない可能性があります。LPは相手方リスクと一時的損失のリスクを負担しており、そのための報酬を期待するでしょう。一部のプロトコルはトークン報酬やリベートで取引手数料を補助していますが、それらは最終的になくなるでしょう。 - 長期的には、分散型プロトコルが中央集権型のもものと競争するためには、バランスを見つける必要があるでしょう。あるいは、流動性プールを超えた他のプロトコルモデルを探る必要があります。

結論

- 2020年に初めて飛躍した分散型パーペチュアルプロトコルは、最初は dYdXに牽引され成長しました。トラクションが上昇すると、初期のプロジェクトはすぐに L2またはアルトチェーンに移行し、パフォーマンスと効率性を向上させました。
- このセグメントは、OIとボリュームの面で、2021年10月のブルマーケットの末にピークを迎え、その後 2022年に下落しました。
- 2021年9月には、流動性プールを利用する新たなプロトコルモデルを持つ GMXがローンチしました。その後、Gains NetworkやLevel Financeなど、同様のメカニズムを持つ一連の他のプロトコルを生み出しました。一方、dYdX、Synthetix、Perpetual Protocolなどの古いプロトコルは進化を続けました。
- 新規参入の登場にもかかわらず、dYdXはこれまでにOIとボリュームの両方で約 55%のシェアを保持し、そのリードを維持しました。GMXはOIの約30%を占める2位に位置していますが、ボリュームは 13%に過ぎません。
- また、GMXには、プロトコル手数料の一部を ETHやステーブルコインで支払われるガバナンストークンホルダーに再分配するという構造がありました。このホルダー収益は、これらのガバナンストークンに対する大きな需要を生み出し、LST(リキッドステーキング)と共にDeFiにおけるリアルイールドトレンドを牽引しました。
- 上記の成長にもかかわらず、分散型パーペチュアルプロトコルはまだ中央集権型のものに後れを取っており、DEX : CEXの比率が約10%であるスポット取引所に比べると、まだマーケットシェアは低いのが現状です。分散型パーペチュアルプロトコルが市場シェアで中央集権型に対して競争できるようにするには、克服すべき課題が残っています。



LEVEL is an Omni-chain Liquidity Marketplace, providing first-class user experience for Traders and innovative risk management solutions for Liquidity Providers.



Do your own research, look at the numbers...



TOTAL TRADING VOLUME

\$19B+

► **Maximize your P&L with zero slippage.**

Permissionless trading at its finest. Open positions directly from any wallet. Entirely non-custodial, 100% on-chain, and the most competitive pricing.

Take advantage of incentive programs and get rewarded.

► **Real Yield, on your terms.**

With our innovative risk management solutions, deploying assets and earning a return has never been easier.

Deposit liquidity according to your risk tolerance, and earn a share of the protocol revenue.

To date, we have distributed over \$10m in fees to liquidity providers alone!



ASSETS UNDER MANAGEMENT

\$26M+



FEES GENERATED

\$24M+



USERS AND COUNTING

34K



DAO TREASURY

\$120M+



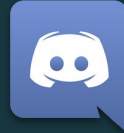
Ready to LEVEL up your trading?

level.finance

LEVEL is fully decentralized and governed by the DAO



FOLLOW US





THANK YOU FOR READING :)